

平成18年度事業計画

1 会議の開催

(1) 総会の開催

平成18年8月2日(水) 北九州市立商工貿易会館 2階多目的ホール

(2) 幹事会の開催

年4回程度開催し、フォーラムの事業の企画や具体的な事項を協議する。

(3) 部会の開催

実証部会と技術部会の合同部会として年3回程度開催する。

第1回合同部会(8月2日) 総会と同時開催

市内企業・大学が開発したロボット技術に関する事例発表を行うとともに、開発したロボットの実演を行う。

第2回合同部会(10月18日予定) 産学連携フェアに併せて開催

宇宙開発や生活支援などの分野へのロボットの応用について、第一線の研究者に事業化ベースの事例や近未来実現できるであろう「夢」を語ってもらう講演会を開催する。

第3回合同部会(1月予定)

フォーラム事業の進捗状況の報告等を予定。

2 研究開発の促進

(1) 市内公共施設のロボットニーズ調査の実施

次世代サービスロボットの実用化・事業化への足がかりとして、先行的に公共施設のロボットニーズや導入可能性を調査し、会員に対し情報を提供する(空港・公園については関係部署と現在調整中。対象分野は順次拡大していく予定)。

中でも特に実現可能性や効果が高いと見込まれるものについては、フォーラム会員をメンバーとする勉強会や研究会を組織しプロジェクト化していく。

・ 公共施設のロボット導入可能性調査

施設管理者へのヒアリングや実地調査を行い、ユーザー側のニーズや意向、実現可能性、導入効果などを把握・整理し、フォーラムの会員への情報提供とプロジェクト化に向けたマッチングを行う。

(2) 研究開発プロジェクトへの支援

市内の大学や企業等で進められている様々な研究開発プロジェクトに対し、研究会の運営や技術的な課題への助言、ユーザー側とのマッチング、国等の研究開発助成の獲得支援などのコーディネート活動を行う。

・ 空港内搬送案内ロボット、自律動作(上肢運動)支援ロボット、配管内遠隔操作検査補修ロボット、ヒトに優しい癒し型ロボット など

3 実用化・事業化の促進

(1) 実証フィールドの提供

試作品が完成し実証段階を迎えた研究開発プロジェクトについて、空港等の公共施設を実証フィールドとして活用できるよう調整を図る。

- ・ 北九州空港、公共下水道 など

(2) 空港での実証運用をモデルケースとしたロボット導入に伴う安全対策の検証

ロボットを実際に導入・運用していく上で不可避となる安全対策について、北九州空港での実証運用をモデルケースに、安全性を担保するルールや体制づくりなどの検証を行い、課題の抽出やノウハウの蓄積を進め、ベストプラクティスとしていく。

4 人材育成の推進

(1) ロボカップチームへの支援

国際的なロボット競技「ロボカップ」に市内から参加している北九州学術研究都市の学生等からなる合同チームに対し、技術的な助言・サポートや活動場所の確保、各種展示会やイベント等での取り組みの紹介などの支援を行う。

また、市内から新たにロボカップに参加するチームを育成していく方策について検討を行う。

(2) 次代を担う人材の育成

ロボット技術者養成への第一歩として、小中学生を対象としたロボット工作教室などを開催し、子どもたちが初めてロボット製作に触れる機会を提供するほか、大学生や一般を対象に、専門的な技術分野にとどまらない多面的なアプローチからロボットを論じる講演会を開催することにより、ロボットへの興味・関心の広がりを促進する。また、市内での体系的なロボット人材育成の仕組みについても検討を進める。

5 情報発信・交流の促進

(1) フォーラムのPRの推進

フォーラムの取り組みを紹介したリーフレットやパネルを作成し、会員が製作したロボットや関連技術等の展示と併せて、各種会議や展示会等あらゆる機会を捉えて市内外に広くフォーラムをPRする。また、フォーラムのホームページを作成しWEB上での情報発信を行う。

(2) 会員相互の交流の促進

フォーラムのホームページ内に会員専用のPR・情報交換スペースを設けるなどの仕組みづくりを行い、会員向けの情報の発信や会員相互の情報交換の場として提供する。